

平成30年(2018年度)1月期に小型沖曳網で採捕したアユの 推定ふ化日組成

亀甲武志・孝橋賢一

1. 目的

冬季のアユは集群性が弱く、魚群探知機による調査によっても資源状況を十分に把握しきれていない可能性が指摘されている。このため1月に北湖の複数の地点において小型沖曳網によってアユの採捕を試みたところ、多数のアユが採捕できた。平成29年度と平成30年度に採捕されたアユの体長を比較したところ、平成30年度のアユは平成29年度よりも小さい傾向がみられた。そこで、採捕された個体のふ化日を推定し、平成29年度と比較を行った。

2. 方法

平成31年1月30、31日にかけて琵琶湖北湖の7水域(知内、今津、萩の浜、和邇、真野、中主、彦根)で小型沖曳網により採捕調査を実施した。採捕したアユは、体長を測定したのち、耳石を取り出し、その日周輪から、ふ化日を推定した。

3. 結果

平成30年度に採捕されたアユの体長は28.5~31.1mmであり、平成29年度に同様の手法で採捕されたアユは31.2~39.9mmと平成30年度よりも大きかった。採捕したアユの推定ふ化日は、9月21日~11月4日までの期間にわたり、10月中旬から下旬にふ化している個体が多かった。推定されたふ化日のうち10月生まれが約85%を占めていた(図1)。平成29年度に推定されたふ化についても約90%が10月生まれであったことから、ふ化日の組成は両年度で大きな違いがないと考えられた。

冬期に小型沖曳網で採捕されたアユは10月生まれの個体を採捕する手法としては適し

ている可能性が考えられた。また同時期に採捕されたアユの体長に両年度で違いがあったが、ふ化時期はほぼ同じであった。したがって、両年度での成長速度に違いがあった可能性が考えられた。

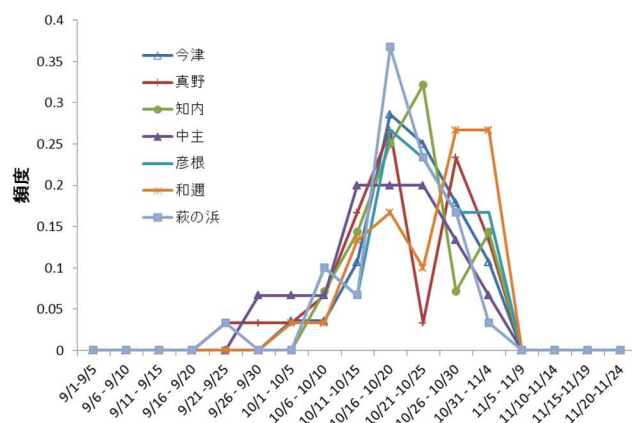


図1 採捕したアユのふ化日組成